

2014 October No230
百万石蝶談会

翔



金沢市寺津町でカラスシジミを採集

細 沼 宏

石川県金沢市寺津町で松井氏によりカラスシジミの幼虫を観察したとの報告(松井、2014)を受け、6月上旬同所へ行ったところ、吸蜜中及び食樹であるオヒョウ付近で複数の成虫を採集したので報告する。

2014年6月 6日	金沢市寺津町上寺津発電所	1♂1♀	細沼 宏
2014年6月 7日	金沢市寺津町上寺津発電所	1♀	細沼 宏
2014年6月 8日	金沢市寺津町上寺津発電所	1♀	細沼 宏
2014年6月14日	金沢市寺津町上寺津発電所	1♀	細沼 宏



ヒメジョオンで吸蜜中のカラスシジミ(2014年7月8日撮影)

尚、雌は全て強制産卵を行ったが、1雌のみが100卵程を産卵しただけだった。しかも、採集地の食樹であるオヒョウよりもハルニレを好んで産卵した。飼育状況については別に報告する。



強制産卵により得られた卵

《参考文献》

松井正人 (2014) 金沢市でカラスシジミの幼虫を採集. 翔(228):9-10.

《ほそぬま ひろし 〒920-0276 内灘町緑台2-122》

石川県小松市の初夏の蝶

佐 藤 卓 也

普通種ばかりだが、2012年、2013年の初夏（5月～7月）、石川県小松市の平野部（一部白山市も含む）で採集した蝶の記録を報告する。目撃記録などは除外し、標本が手元にあるものに限った。採集はすべて筆者であり、標本の保管者も筆者である。

ツバメシジミ	2013年6月17日	白山市湊町（北陸自動車道海側の土手）	2 ♂
ヤマトシジミ	2012年5月31日	小松市長崎町（梯川右岸の土手）	1 ♂
ベニシジミ	2012年5月31日	小松市長崎町（梯川右岸の土手）	1 ♀
ベニシジミ	2013年5月14日	小松市安宅新町	1 ♂ 2 ♀
ベニシジミ	2013年6月8日	小松市中海町	1 ♂
ベニシジミ	2013年6月17日	白山市湊町（小舞子海水浴場）	1 ♂
ベニシジミ	2013年7月13日	白山市湊町（手取川河口部左岸の土手）	1 ♂
ベニシジミ	2013年7月24日	小松市中海町	1 ♂ 1 ♀
ベニシジミ	2013年7月30日	小松市草野町	2 ♂
キタキチョウ	2013年6月8日	小松市岩淵町	1 ♂ 越冬個体
ウラギンヒョウモン	2013年7月24日	小松市中海町	1 ♂
ヒメアカタテハ	2013年7月24日	小松市中海町	1 ♀
ジャノメチョウ	2013年7月24日	小松市中海町	1 ♂
ヒメウラナミジャノメ	2012年5月26日	小松市原町	1 ♂
ヒメウラナミジャノメ	2012年6月2日	小松市江指町	1 ♀
クロヒカゲ	2012年6月2日	小松市江指町	1 ♀
コチャバネセセリ	2013年6月8日	小松市中海町	1 ♂
キマダラセセリ	2012年6月27日	白山市湊町	1 ♂
オオチャバネセセリ	2013年6月8日	小松市中海町	1 ♀
オオチャバネセセリ	2013年6月14日	小松市中海町	1 ♂ 1 ♀
イチモンジセセリ	2012年6月2日	小松市草野町	1 ♀
イチモンジセセリ	2013年5月18日	小松市千木野町（いこいの森）	1 ♂ 1 ♀
イチモンジセセリ	2013年6月8日	小松市岩淵町	2 ♂

《さとう たくや 〒923-0931 小松市大文字町129》

2014年はカラスシジミの当たり年か

松 井 正 人

石川県白山市の中宮スキー場上部（標高970m付近）に咲くヨツバヒヨドリの花で、ウラギンヒョウモンやミドリヒョウモン、サカハチチョウやスジボソヤマキチョウとともに吸蜜する3頭のカラスシジミを観察した。

2014年7月21日 石川県白山市中宮スキー場 カラスシジミ 2♂1♀目撃 松井正人

石川県のカラスシジミは稀少な存在で、分布の概要は卵観察によって把握されていたが、成虫の観察例は以下の6頭しか知られていなかった。

1958年8月 5日 白山	1 頭	加戸・高村	(武藤、1960)
1958年8月17日 白山市白山別当出合	1 頭	川瀬英夫	(武藤、1960)
1962年8月 5日 白山市市の瀬～別当出合	1 ♀	田中蕃・他	(田中・若林、1963)
1988年9月 3日 白山市白山湯の谷	1 ♀	高橋芳夫	(高橋、1988)
1999年8月30日 白山市白山釈迦林道	1 頭	吉村久貴	(吉村、2005)
2001年7月15日 金沢市奥新保医王山登山口	1 頭	浅地哲也	(松井、2003)

2014年は、金沢市上寺津発電所付近においても複数個体の成虫が採集されており（細沼、2014）、この年はカラスシジミの当たり年の可能性が高い。



ヨツバヒヨドリで吸蜜するカラスシジミ♀（2014年7月21日撮影）

《参考文献》

- 細沼 宏 (2014) 金沢市寺津町でカラスシジミを採集. 翔(230):1.
 松井正人 (2003) 金沢市に於けるカラスシジミの記録. 翔(162):6.
 高橋芳夫 (1988) 石川県白峰村湯ノ谷にてカラスシジミを採集. だんだら(2):16.
 武藤 明 (1960) 石川県の蝶(Ⅱ). とっくりばち(9):4-6.
 田中 蕃・若林守男 (1963) 加賀白山採集記. 佳香蝶 14(52):90-96.
 吉村久貴 (2005) 石川県産蝶類14種の記録. とっくりばち(73):18-19.

《まつい まさと 〒920-3121 金沢市大場町東871-15》

石川県庁周辺でクマゼミの鳴き移りを観察

松 井 正 人

石川県金沢市鞍月の県庁周辺ではクマゼミが発生しており、発生数が少ないためか、鳴き声は6時40分～10時30分に観察されている(松井、2013)。

2014年は、7月20日、7月26日、8月2日と、7時から8時にかけて観察に出かけたところ、8月2日になってようやく鳴き声を聞くことができた。

鳴き声は7時10分頃から聞こえ始め、7時20分頃に姿を確認した。同じ場所で何度か鳴いていたが突然鳴き止んで飛び立ち、しばらくすると10mほど離れた場所で鳴き始めたが、30秒ほど鳴くと突然鳴き止み再び飛び立った。今度は40mほど離れた場所で鳴き始めたが、直ぐに悲鳴音に変わり声はしなくなった。8月2日の観察は、この1♂だけだった。

2014年8月2日 石川県金沢市鞍月 クマゼミ 1♂目撃 松井正人

《参考文献》

- 松井正人 (2013) 石川県庁舎周囲に定着したクマゼミが鳴く時間帯. 翔(225):9-10.

《まつい まさと 〒920-3121 金沢市大場町東871-15》

表紙のむし - エルタテハ -

エルタテハを初めて見たのは、まだ工事中の丸石谷林道を新岩間温泉から歩いていた時だった。次に見たのは14年後で、白山釈迦岳湯の谷だった。3回目は更にその15年後、白山観光新道の「馬のたてがみ」に広がるお花畑だった。こんなことから、エルタテハはなかなか出会えない希少な蝶と分かってもらえるだろうし、深山幽谷の蝶だと思い込んでいても不思議はないだろう。

こんな憧れの蝶が、あっちにもこっちにも車道横の樹液に止まり、触ることだった。まるで夢のような出来事があったのです。

松井正人

石川県金沢市でアサギマダラが幼虫越冬

松 井 正 人

石川県金沢市の平野部にある我が家の庭で、アサギマダラが幼虫で越冬し羽化したので報告する。観察した我が家は、金沢市北部の標高2m程の水田地帯に有る。1997年頃からキジョランの鉢植えを置き、2012年から地植えのフジバカマが咲いているが、これまでに我が家周辺でアサギマダラを観察したことは無い。

2014年4月19日、フジバカマが20cm程に伸びていた。キジョランの葉の一部が黄色く変色していたのでむしっていると、丸々太ったアサギマダラの幼虫が見つかった。7鉢のキジョランを調べると50mm程の終齢幼虫3頭、20mm程の終齢前の幼虫3頭が見つかり、キジョランの固い葉には、初齢幼虫の食べ跡と思われる丸い穴がいくつも開いて



4月19日に6頭の幼虫が見つかり、最初に羽化したのは5月23日の♀だった。

いた。鉢は、地植えのフジバカマの隣に置いてあり、前年の秋にフジバカマに飛来したアサギマダラの♀が、キジョランに産卵していったと思われる。6頭の幼虫は、4月27日～5月5日に5頭が蛹化し1頭は4月30日に行方不明になった。5頭の蛹は、北上するアサギマダラが石川県の海岸で観察され出す5月23日～5月30日に3♂1♀が羽化したが、1頭は羽化しなかった。

アサギマダラは、常緑のキジョランを利用して冬期間も摂食しながら幼虫で越冬することが知られている(衣笠, 1993)。しかし、キジョランの成育は福井県若狭湾が日本海側の北限(Y. Horikawa, 1972)で、石川県には自生していない。1998年の10月上旬に、人工採卵し鉢植えのキジョランを使って同じ庭で越冬させたところ、冷たい雨にたたかれて葉から落ちて死亡するものが多かった。3頭が生き残り、12月中に蛹化したが、2蛹は羽化せず1蛹は4月に羽化したが羽が全く伸びず、気候的にも越冬は困難と思っていた。

2013年の10月は温かく、10月中下旬になっても石川県各地で多数のアサギマダラが観察されている。我が家の庭で越冬したアサギマダラの親は、秋の南下移動中の10月中旬以降に偶然フジバカマを見つけて飛来したところ、隣にキジョランがあり産卵したと思われる。

産卵が遅かったことで蛹化に至らず、幼虫で越冬に入り、積雪がほとんど無かったことが幸いし、羽化に至ったものと考えられる。

《 参考文献 》

衣笠弘直 (1993) アサギマダラの幼虫は山陰でも越冬可能. We Love! アサギマダラ情報(152):691-696.

Yoshiwo Horikawa (1972) キジョラン. Atlas of the Japanese Flora I:324.

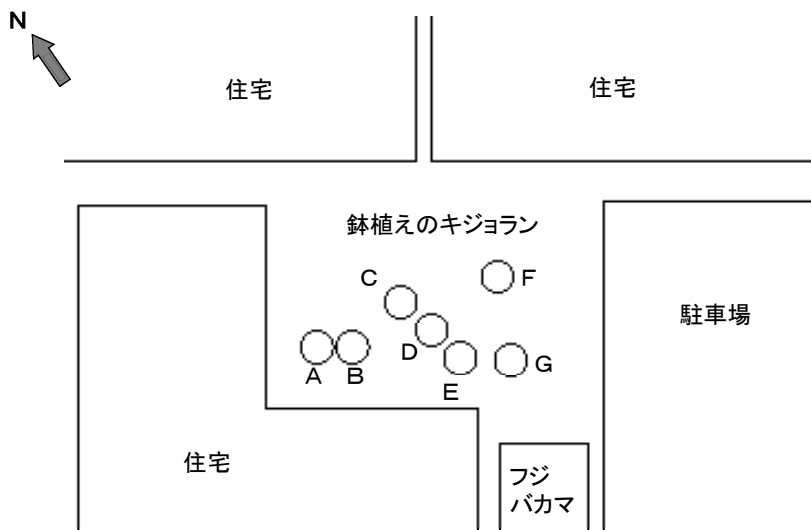
幼虫の発見場所と生長

発見場所	鉢A	鉢A	鉢A	鉢A	鉢D	鉢F
4月19日	終齢50mm	終齢50mm	終齢前20mm	終齢前20mm	終齢前20mm	終齢50mm
4月25日	前蛹					前蛹
4月27日	蛹化					蛹化
4月28日		前蛹	前蛹			
4月29日		蛹化				
4月30日			蛹化		行方不明	
5月 3日				前蛹		
5月 5日				蛹化		
5月23日	6:30♂羽化					6:30♀羽化
5月24日			部分変色			
5月26日		6:30♂羽化				
5月29日			黒く変色			
5月30日				7:30♂羽化		

※鉢A、鉢C～鉢F: 丸い食痕、V型食痕多数

鉢B: 食痕無し

鉢G: 丸い食痕あり



鉢植えのキジョランと地植えのフジバカマの位置

金沢市の2013-2014年の月別の気温と最深積雪(気象庁ホームページより)

	2013年			2014年			
	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月
月の日平均気温	18.9	10.9	6.3	3.9	3.5	7.4	12.4
月の日最高気温	22.9	15.2	9.4	7.3	6.7	11.3	17.1
月の日最低気温	15.6	7.1	3.5	0.7	0.8	3.7	7.8
月の最高気温	32.9	22.2	15.4	15.1	17.7	22.7	22.5
月の最低気温	9.6	0.8	0.1	-2.3	-3.1	-1.0	2.6
月の最深積雪			3	5	16	8	
月の日平均気温(平年値)	17.1	11.5	6.7	3.8	3.9	6.9	12.5
月の日最高気温(平年値)	21.3	15.5	10.2	6.8	7.3	11.0	16.9
月の日最低気温(平年値)	13.3	7.7	3.4	0.9	0.7	3.0	8.2
月の最深積雪(平年値)		1	14	39	30	15	

※平年値は、1981～2010年の30年平均値



地植えのフジバカマ
(4月19日撮影)



キジョランの鉢がある
庭の様子。

右手に大きく見える
のがAの鉢。

左から二つ目の鉢は
Fの鉢。

(4月20日撮影)



黄変した葉を摘んで
いて見付けた終齢幼虫
とキジョランの固い葉に
残された食痕。

越冬幼虫だからかは
分らないが、見慣れ
た幼虫よりは、ずいぶ
ん白っぽい。

(4月19日撮影)



白っぽい終齢幼虫の
頭部。白色部が発達
し、黒地に白く入る模様
がつながっている。

(4月20日撮影)



多数残されていた初
齢幼虫の丸い食痕。

(4月20日撮影)



前蛹
(4月26日撮影)



蛹化後しばらくすると白かった紋
が銀色に輝き出す(4月29日撮影)



色づき始めた蛹
(5月25日撮影)



羽化直前の蛹
(5月30日撮影)



おかしな変色が始まった蛹
(5月24日撮影)



変色が全体に広がり死んだ蛹
(5月29日撮影)



Aの鉢で5月30日に
最後の♂が羽化。
(5月30日撮影)

初夏の海岸マーキングで観察されたアサギマダラの雌

松 井 正 人

アサギマダラは、初夏に日本列島を北上移動することが知られており、石川県ではこの時期になると早朝の海岸でスナビキソウに多数が飛来する。

長旅の栄養補給のためにスナビキソウで吸蜜すると思われていたが、花ではなく傷付いた茎や葉にストローの様な口吻を伸ばしており、観察されるほとんどが♂なので、♂の性生長に必要なアルカロイドを摂取するために、スナビキソウに飛来していることが分かってきた。

♀も稀に海岸で観察されるが、その数はきわめて少なく、過去6年間に於ける♀の割合は、およそ0.3～0.5%で1000頭に3～5頭が観察されているに過ぎない。

2014年は♀の観察数が多く、その割合はこれまでで最も高かった2008年の0.50%の約4倍の2.21%だった。

石川県の海岸におけるアサギマダラのマーキング数

	♂	♀	計	♀割合
2008年	1002	5	1007	0.50%
2009年	683	3	686	0.44%
2010年	278	1	279	0.36%
2011年	1054	4	1058	0.38%
2012年	879	3	882	0.34%
2013年	528	2	530	0.38%
2014年	532	12	544	2.21%



スナビキソウの花に口吻を伸ばすアサギマダラの♀ (2014年5月31日 珠洲市狼煙)

《まつい まさと 〒920-3121 金沢市大場町東871-15》

会員の動き・しゃばの動き

■オーストラリア原産のドクグモ

7月19日、金沢市高柳の共同住宅1階のベランダで、セアカゴケグモ1♀が見つかった。1995年に大阪府で初めて確認され、これまでに東北から沖縄まで31府県で発見されているが、北陸3県では初めて。日当たりが良く広い場所で、地面に近い直射日光が当たらない場所に巣を造るらしい。

■セミを食べよう

信州にいた頃は、雑草やら虫をよく食べた。カイコやハチノコ、オカエビは酒のつまみにもなるほどおいしかった。8月2日、福富氏の呼びかけで30人ほどがスジアカクマゼミの成虫と幼虫の素揚げ、天ぷら、薫製を食べたらしいが、幼虫の串焼きなんぞもおいしいかも知れない。

■コエゾゼミの腹弁

オスが鳴くときに使う腹弁は、種によって形は決まっていると思っていたが、北海道は先が丸く、奈良県は尖っている。医王山のは丸くて北海道と似ているが、どの辺りから変化するのだろうか。

■日本産ナナフシ目カタログ

月刊むし523号に掲載されている。市川顕彦氏が分類を見直し、エダナナフシやナナフシモドキ、シラキトビナナフシなど学名がずいぶん変わった。これから新種の記載も有るらしい。

■伊藤ふくお著「セミと仲間の図鑑」

日本産セミ全種とアワフキ、ヨコバイのガイド的な種が掲載され、税抜1500円。大阪のクマゼミは「ワイヤワイヤ」と大阪人

らしい鳴き方をすると、ツクツクボウシは夏休みの終わり頃には「シュクダイヤッタカ シュクダイヤッタカ ハヨセーヨ ハヨセーヨ」と鳴くと紹介している。

■セミの声を友としていたが

松井氏、8月末に1週間ほど入院。県庁横だったため、ベランダに出てクマゼミの声を楽しんでいたら、「危ないので外はダメです」と看護師にしかられた。「屋上は良いのにベランダはダメ」と思ったが、可愛い娘だったのであきらめたとか。

■スキー場跡地の変った虫

旧の白山5村が経営していたスキー場、合併後には白峰、中宮、鳥越のスキー場が管理されなくなり、草が生い茂っている。数年は特殊な環境が続くので、変った虫が発生するかもしれない。

■荒谷へはミントレイノから

白山市の荒谷林道最高部は、ヨツバヒヨドリが咲きアサギの好観察地だったが、とんでもない悪路で、なかなか出かける気にはならなかった。今年、ミントレイノから延びる舗装された林道が荒谷林道につながり、ポイントまで楽々に行けるようになった。

■エゾゼミの仲間は裏年

柿やタケノコには、1年交代で表年と裏年があり裏年は不作となる。エゾゼミの仲間も同じで、今年は裏年。去年はコエゾの声をかき消すくらいに聞こえたエゾの声が、今年はどこへ行っても聞こえてこない。

■一里野周辺のエルタテハ

石川県では稀種にランクされ、狙っても

見つかる種ではなかったが、今年は6月に新成虫が採集されて以来、行けば確実に観察できた。更には、中宮温泉周辺や中宮スキー場でも観察されており、今年は当たり年の可能性が高い。

■宝達山の飛来はわずか

白山麓ではアサギが湧き、連日大量標識が続いているが、宝達山は静寂の中。9月の標識累計は13日でようやく50頭を超え、14日からは日に50頭程が標識されているが、早くドカ〜と飛んでこないかなあ。

■夜がふけると鳴き止むの？

いつの頃から鳴き始めたのか定かではないが、今年は庭のアオマツムシがやかましい。2階の窓を開けると、すごい音量で聞こえ、寝付けられないのではと心配していたら、10時までには鳴き止み静かになった。

■白山麓はアサギが乱舞

8月下旬から白山麓では標高1000m付近でアサギが乱舞し、好ポイントにも舗装道路で行けるようになり、中村・平松チーム

のマーキングは絶好調。9月に入って気温の低下と共に乱舞の標高も下がり、18日までの総数は4000頭を突破した。

■ 例 会 の 記 録 ■

8月7日(木) 浅地メッキ2階にて、午後8時から開催。

今日いない松井氏は、今朝尿管結石の激痛に襲われたとかで、今日の出席者の中にも経験者が二人いた。酒ではなく水を良く飲み、尿をたくさんすることが大切らしい。衝撃波装置で石を破壊すると清々しい気分になり食欲も湧くと、年寄りが言っていた。

その他の話題は、寺津のヘリグロチャバネはピンポイント、倉ヶ岳大池のホソバセリ、ミヤマカラスシジミを採卵、昔の鈴見台はオオムラサキの楽園、シルビアの夏型と秋型、ヒゲナガゾウは樹皮下？、スジアカクマゼミは苦かった、などなど。

参加は、大宮、井村、浅地、浅野、細沼、吉村、山岸、長田の8人。

■ ■ 表紙デザイン：小幡英典 ■ ■

目 次

細沼 宏：金沢市寺津町でカラスシジミを採集	1
佐藤卓也：石川県小松市の初夏の蝶	2
松井正人：2014年はカラスシジミの当たり年か	3
松井正人：石川県庁周辺でクマゼミの鳴き移りを観察	4
松井正人：石川県金沢市でアサギマダラが幼虫越冬	5
松井正人：初夏の海岸マーキングで観察されたアサギマダラの雌	10
編 集 部：会員の動き・しゃばの動き	11

翔

230号

Tobu 2014年10月10日発行
百万石蝶談会
金沢市大場町東871-15 松井方

<http://homepage3.nifty.com/100man/>

☎920-3121 ☎076-258-2727
郵便振替 00750-8-562
印刷 小西紙店印刷所

